

第1章 ロゴセラピー

ロゴセラピーの概念と思想の中核である、3つの基本概念「意志の自由」「意味への意志」「生きる意味」を発見する手がかりとして、意味発見の指標となる3つの価値である「創造価値」「体験価値」「態度価値」がある。さらに今回はこの3つの価値の他に、山田(1999)の中で提示されている、「存在価値」を新たに価値領域に加えることとした。

第2章 事例研究

【目的】 ロゴセラピーの基本概念「意志の自由」「意味への意志」「生きる意味」、並びに価値領域である「創造価値」「体験価値」「態度価値」「存在価値」を基に、意味を喪失する悩みに直面した時、どの価値の影響を受け、意味を再発見し苦悩から脱したのか、そのプロセスを明らかにすることを第1の目的とした。第2の目的として、生きる意味の再発見が「どのように自分自身の成長に繋がったのか」を明らかにする。

【方法】 予備調査として質問紙は面接予定者に個別配布し、GHQ(General Health Questionnaire; 以下 GHQ)と、意味を喪失した悩みの内容を回答する自由記述の質問紙の調査を行った。3名の被験者に半構造化の個別面接を行った。面接では、想起を促すために、悩みの経過についてのグラフを記入してもらい、被験者の話の流れに沿って進めていった。

第3章 結果及び考察

事例1 難病がもたらした生きる意味の喪失から、生きる意味の再発見に至るまで。小学生の時に難病を発症した。闘病の苦痛や普通の生活を失った喪失感が、記憶を欠落させた。しかし病を受け入れ、負けずに生きると決心し『態度価値』を実現した。そして、同級生の死を目の当たりにし、A君のためにも生きなくてはいけないと思い『創造価値』を体験した。そして旅行先で、今までの全てが帳消しになるくらいの風景を見たことで『体験価値』を経験し生きることに對して意欲が生まれ、生きる意味を見出した。

事例2 アルバイトでの失敗体験がもたらした生きる意味の喪失から、生きる意味の再発見に至るまで。生きる意味を考え始めたのは、中学生の頃からであった。大学生になってから始めたアルバイトでの大きな失敗が、生きる意味の喪失を引き起こした。しかし同期のアルバイトの存在が大きな支えとなり存在に励まされた。これは『存在価値』で説明が出来る。そしてアルバイトに対してやりがい見出し『創造価値』を見つけ、生きる意味を見出していった。

事例3 就職がもたらした生きる意味の喪失、生きる意味の再発見に至るまで。入社にあたって、課題や資格試験を課されたこと、そして自分と他の内定者との能力の違いを感じ不安を抱えた。その後会社との連絡事故がおこり、自分の存在を否定的に捉え、生きる意味を失った。しかし、何人もの友人の励ましや支えがあり、『体験価値』から意味を見出した。もう一度頑張ってみようという意欲が湧き、生きる意味を再び見出した。

第4章 総合考察

3名とも生きる意味の再発見を果たした。共通性は、過去の自分と比べ主観的に成長できていると感じていた点である。意味の再発見には、価値領域説のいずれか、もしくは複数を体験しており、その体験から生きる意味を再び見出している。